

文学部教育学科中等教育課程

【教員養成の目標】

文学部教育学科中等教育課程では、教職専門科目や教科専門科目、そして本コース独自の専門科目を通じた知識を基底に、時代や社会の動きをとらえながら、教育の本質とは何かについてじっくり考えることや、人間の心と身体の仕組みおよびその発達について科学的に理解することを通じて、教職において真摯な態度と困難に立ち向かう「気魄（責任感）」と、課題解決に向けて意思決定と行動選択をできる「適切な見識（判断力）」を持ちつつ、教職に求められる責任感と倫理観をもち、謙虚な姿勢で学び、「誠意（真心）」と「勤労（実践力）」をもって児童・生徒の指導にあたることのできる教員の養成を目的としている。

以上の目的のもとで、教員養成の教育課程においては、児童・生徒の発達段階を土台にした実践的指導力の育成、自らの資質を向上させ続ける自己教育力の育成、自ら問題を発見し・考え・解決する問題解決力の育成、主体的に動き・粘り強くやり遂げる行動力の育成に力点を起しつつ、今日求められる「主体的で対話的な深い学び」を担うことのできる中学校社会科（1種）、高等学校地歴科（1種）・公民科（1種）、中学校・高等学校の保健体育科（1種）の教員、そして、養護教諭（1種）及び特別支援学校教諭（1種）の養成を行う。

【当該目標を達成するための計画】

上記の教員養成の目的を達成するために、文学部教育学科中等教育課程では、心と身体と頭の調和のとれた発達を考えるべく、人間形成に関する多彩な科目を設置し、幅広く、かつ専門的に学ぶことが出来る様に構想されている。1年次・2年次には、必修の専門科目として「教育学の基礎A・B」と「学校安全」、そして「教育学研究」及び「人間と教育」を通して、人間性が豊かで「誠意（真心）」と「勤労（実践力）」、そして「気魄（責任感）」と「適切な見識（判断力）」を持った教員養成のために必要な知識の基盤を構築する。その上で、3・4年次には、個々の主体的な学びを元に専門性を高めるために、PBLやグループ・ワークといったアクティブ・ラーニングが中心となる「教育学演習1・2」や「キャリアデザイン実習」、「卒業論文」を必修科目として設置し、基礎から専門へと展開しながら、今日求められる教職に必要な知識や技能を修得できる体系的な履修体制を整える。このような履修体制を基軸として、いわゆる教職科目としては、1・2年次には、教育について基礎的な理解の土台となる教職論や教育心理学、生徒・進路指導論、教育相談、道徳教育の理論と実践、教育方法論等を設定し、特に2年次からは教科に関する専門科目の履修と合わせて、実践的な力量形成を図る各教科の指導法（各教科教育論・指導法）を設定する。

なお、各教科の指導法を中心に、ICT機器の活用に関する知識や技能の習得に向けて、ICT機器を使用した模擬授業等を設定する。そして、3年次には教職について多角的に理解を深めていくための教育課程論や教育行財政、特別支援教育概論等を設定し、4年次には教職課程における学ぶの集大成としての教育実習や養護実習、また、4年間全体の教職課程の履修を通じて、個々が教職に関する知識や技能の習得状況や課題について省察を深める教職実践演習の科目を設定する。

また、以上の過程では、学校見学や学校現場におけるボランティア等の機会や情報の提供を行い、学生の教職に向けたキャリア形成と力量の形成を図る。